



8勝7敗で勝ち越せばいいんだ

🌸 オアシスのような言葉

「8勝7敗で勝ち越せばいい」。中学校時代の恩師であり、多くの著書のある家本芳郎先生（故人）から、教員になりたての頃にいただいた言葉です。すべてをうまくやらなければならないと気負っていた私にとって、オアシスのような言葉でした。

当時の私は、頭の中で「教師はこうあるべき」と理想ばかり追い求めています。一方で、実際には子どもの声を聞かずに高圧的な指導に終始することもありました。今思い出すと本当に恥ずかしい限りですが、当然、子どもたちとうまくいかないことの連続でした。例えば、教員になって1年目に担任した中学校1年の学級に、マヤがいました。秋の文化祭が終わった頃、マヤが私を無視するようになりました。話しかけても返事もしません。そして、彼女は私の書いた学級通信をゴミ箱に捨て始めました。目の前で毎回捨てるのです。学級通信の内容がいけないのか…。マヤとの対話はどうしたらいいんだ…。日常の子どもたちとのかわりりは…。マヤは私に何かを伝えたかったのでしょうか。しかし、当時の私はどうすればよいかわからず、思い悩む毎日でした。

🌸 「通算打率3割を目指す」

子どもとの関係づくりや学級経営がうまくいかずに悩んでいた

私に、家本先生はこんなふうに話してくださいました。

「教員人生を終えるときに、相撲にたとえたら8勝7敗で勝ち越せばいいんだ。野球なら、通算打率3割を目指す。3割打てれば立派な打者だろ。まだ1年目。子どもとうまくいかなくても当たり前。5年後、10年後にうまくいくようになればいいし、退職するまでに取り返して、最終的に3割うまくいけばいいじゃないか。欲張って8勝7敗で勝ち越せば上出来だよ」

「通算打率3割を目指す」

「8勝7敗で勝ち越せばいい」

私はこの「お守り言葉」を今でも大切にしています。「失敗しても大丈夫、この先に必ず取り返せる」と思えるからです。

加えて次のようなお話もいただきました。

「今うまくいかないことがあっても、次に会う子どもたちにそれを返していくんだ。できなかったことを、次の子どもたちで実現していく。そうやって力をつけていけばいい」

🌸 「失敗を恐れず、たくさんの打席に立つ」

家本先生からいただいた「お守り言葉」に加えて、最近はこのことも考えています。

「2打席で1回のヒットを打てば打率5割。でも私は出場回数、打席数の多い選手でしよう。凡打が増え、たとえ打率が下がっても、多くの打席に立てる打者を目指そう」

失敗を恐れて子どもとかわることを避けるのではなく、日々子どもとのかかわりを大切に続ける教員でいたいと考えています。

(山口 聡)